

ハスモンヨトウによる農作物被害に注意！

岡山県病害虫防除所の8月14日～15日の巡回調査によると、県下全域のハスモンヨトウ若齢幼虫の食害によるダイズの被害葉（白化葉）の発生ほ場率は2.7%で平年（0.16%）より高くなっています。また、赤磐市のフェロモントラップにおける8月1半旬～5半旬における雄成虫誘殺数は、1911頭で平年（1499.2頭）よりやや多くなっています。特に8月4半旬での誘殺数は803頭（平年385.3頭）、5半旬では、495頭（平年459.0頭）と増加傾向となっています。

本虫は広範な作物を加害します。下記（5）の加害作物を栽培しているほ場では、注意深く観察し、幼虫の発生を確認した場合は速やかに防除を実施してください。8月22日広島地方気象台発表の気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の増殖を助長する条件であることから、現時点で幼虫の発生を認めなくても、注意してください。

＜防除対策及び防除上の参考事項＞

- （1）若齢幼虫が群生している被害葉（白化葉）を切り取って処分する（図1）。
- （2）幼虫が中齢（体長約2cm、図2）以上になるとほ場に分散して食害するようになり、被害量が増大するだけでなく、薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫期に薬剤散布を行う。
- （3）薬剤散布に当たっては薬剤が葉裏にも十分かかるよう留意する。また、散布後は幼虫の生死等で防除効果を確認するとともに、その後の幼虫の発生に注意する。幼虫が生存している場合は、薬剤抵抗性の発達が懸念されるので、系統の異なる薬剤で防除する。
- （4）ダイズ及びエダマメにおける主な防除薬剤は表1、表2のとおりであるが、その他の作物については、各作物に登録のある薬剤で防除する。なお、薬剤抵抗性の発達の恐れがあるため、同じ系統の薬剤の連用や効果が低下した薬剤の使用は避ける。また、薬剤の使用に当たっては農薬使用基準を厳守し、人畜、水産動物等への危害防止に努める。
- （5）本虫はダイズ以外に、雑穀ではアズキ、野菜ではサツマイモ、サトイモ、キャベツ、ナス、ハクサイ、ダイコン、カブ、レタス、ネギ、トマト、ピーマン、ニンジン、イチゴ、アスパラガス、ブロッコリー、果樹ではブドウ、カキ、カンキツ類、花きではキク、バラ、シクラメンなど広範な作物を加害する。



図1 若齢幼虫の食害によるダイズの白化葉と卵塊



図2 中齢幼虫（体長約2cm）

表1 ダイズにおけるハスモンヨトウの主な防除薬剤

令和6年8月26日現在

農薬の名称	農薬使用基準（使用方法『散布』のみ）			IRACコード
	希釈倍数・使用量	使用時期	本剤の使用回数	
トレボン乳剤	1000倍	収穫14日前まで	2回以内	3A
トレボン粉剤DL ¹⁾	4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	3A
アタブロン乳剤	2000～4000倍	収穫14日前まで	2回以内	15
カスケード乳剤	4000倍	収穫7日前まで	2回以内	15
ノーモルト乳剤	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	15
マッチ乳剤	2000～3000倍	収穫7日前まで	2回以内	15
マトリックフロアブル	2000～3000倍	収穫前日まで	3回以内	18
ロムダンフロアブル	2000倍	収穫14日前まで	3回以内	18
ロムダンゾル	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	18
フェニックス顆粒水和剤	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	28
フェニックスフロアブル	2000～4000倍	収穫7日前まで	3回以内	28
プレバソンフロアブル5	4000倍	収穫7日前まで	2回以内	28
ベネビアOD ²⁾	2000～4000倍	収穫7日前まで	3回以内	28
ヨーバルフロアブル	5000倍～10000倍	収穫7日前まで	2回以内	28
ディアナSC	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	5
アニキ乳剤	2000～3000倍	収穫前日まで	3回以内	6
デルフィン顆粒水和剤 ¹⁾	1000倍	発生初期但し、収穫前日まで	—	11A
トルネードエースDF	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	22A
アクセルフロアブル	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内	22B
グレースシア乳剤	2000～3000倍	収穫14日前まで	2回以内	30
プレオフロアブル	1000～2000倍	収穫7日前まで	2回以内	UN

1) 豆類（種実）で登録あり。

2) TPNを含む農薬、ストロビルリン系の薬剤を含む農薬及び銅剤との混用は薬害のおそれがあるので使用しない。

表2 エダマメにおけるハスモンヨトウの主な防除薬剤

令和6年8月26日現在

農薬の名称	農薬使用基準（使用方法『散布』のみ）			IRACコード
	希釈倍数・使用量	使用時期	本剤の使用回数	
トレボン乳剤	1000～2000倍	収穫14日前まで	2回以内	3A
トレボン粉剤DL	3～4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	3A
アタブロン乳剤	2000～4000倍	収穫14日前まで	2回以内	15
カスケード乳剤	4000倍	収穫前日まで	2回以内	15
ノーモルト乳剤	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	15
マッチ乳剤	2000～3000倍	収穫前日まで	2回以内	15
フェニックス顆粒水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	28
フェニックスフロアブル	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	28
プレバソンフロアブル5	4000倍	収穫3日前まで	3回以内	28
ベネビアOD ³⁾	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	28
ヨーバルフロアブル	5000倍～10000倍	収穫前日まで	3回以内	28
アニキ乳剤	2000～3000倍	収穫前日まで	3回以内	6
アフアーム乳剤	1000～2000倍	収穫3日前まで	2回以内	6
グレースシア乳剤	2000～3000倍	収穫前日まで	2回以内	30
プロフレアSC	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	30
ディアナSC ¹⁾	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	5
デルフィン顆粒水和剤 ²⁾	1000倍	発生初期但し、収穫前日まで	—	11A
マトリックフロアブル	2000～3000倍	収穫前日まで	3回以内	18
トルネードエースDF	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	22A
アクセルフロアブル	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内	22B
プレオフロアブル ¹⁾	1000～2000倍	収穫前日まで	2回以内	UN

1) 豆類（未成熟）で登録あり。

2) 野菜類で登録あり。

3) TPNを含む農薬、ストロビルリン系の薬剤を含む農薬及び銅剤との混用は薬害のおそれがあるので使用しない。

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、農薬飛散に注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

